

# シラス漁へのフグ稚魚混入防止対策研究

(予算区分 県単 研究期間 平成27～29年度)

担当：資源海洋科 池田卓摩

## 【研究の背景とねらい】

- 平成26年に、シラス加工品にフグの稚魚が混入する事例が全国の多くの地域で発生し、全国有数のシラス産地である本県漁業者、加工業者に大きな影響を与えました。
- サイズが数十ミリ程度のフグ稚魚は、外見からの種査定は困難であることや、フグ稚魚の多くは有用種ではないため、分布や生態に関する知見は少なく、混入防止の対策は受身にならざるを得ません。
- 本研究では、フグ稚魚の種類や混入時期、場所、毒性等を調査することで、発生時期等を明らかにします。これにより、加工の際に異物除去の重点時期を設定する等の積極的な対策が可能になり、フグ稚魚混入時の選別漏れのリスクが軽減します。

## 【これまでに得られた成果】

(平成27年度までの成果)

- シラス水揚物に混入した混入したフグ稚魚の99%がサバフグ属のフグでした。
- 駿河湾では9月下旬から11月中旬に、遠州灘では4月下旬から12月上旬に混入が見られました。

(平成28年度の成果)

- 駿河湾では7月上旬から10月下旬に、遠州灘は5月下旬から11月上旬に混入が見られました。全長30mm以下の小型サイズは5月下旬から11月上旬にかけて長期的かつ、断続的に混入していました。
- 混入したフグは全長10～60mmの比率が全体の96%と高く、その中でも全長20mm以上30mm未満の個体が49.8%と特に高いことが分かりました。
- 平成27、28年度の結果からフグ混入密度とシラス水揚量には相関がありませんでした。

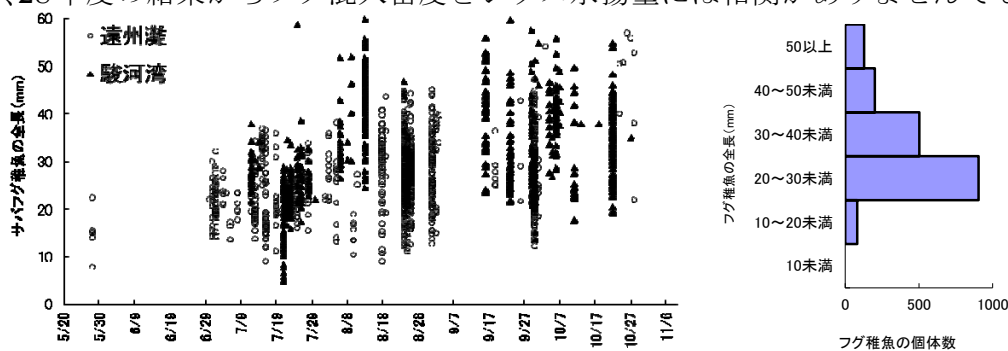


図 混入したフグ稚魚の全長の推移(左)とフグ稚魚の全長組成(右)

## 【期待される効果】

- シラス加工の際には、フグ稚魚の混入時期に合わせたチェック体制をとることで、フグ稚魚混入時の選別除去漏れのリスクが軽減されます。
- 異物混入防止の取り組みを情報発信することで、消費者へ安全性をアピールできます。

## 【今後の計画】

- 選別漏れの危険がある小さなサイズのフグ稚魚が長期間、断続的に混入することから、混入時前後の海況を比較することにより、混入する海況条件を検討し、混入予測の可能性を検討します。
- 混入するフグ稚魚のサイズ別、時期別の毒性を検査します。

(作成 平成29年4月)